１回目の授業は 11 月 4 日(金)に藤城小学校で行った。筆者は今年は、学級担任は持っていないので５年生の学級を借りて、授業を行った。本校の情報教育については、情報活用能力の育成をめざして、学年ごとに指導内容を定めている。しかしながら、実際問題、その指導計画通りに指導していくのは難しいことであり、今回は単発の授業であるということをまず、正直に報告しておく。

冒頭「１回目の」ということで、実はもう一度授業をする機会に恵まれたのである。「チャンスは生かしてこそチャンス」であるという言葉が筆者は好きであるが、まさにもう一度チャンスを生かすことができたのである。それは、渡島視聴覚教育研究会の研究授業である。筆者は、情報関係で、渡島情報教育研究会と渡島視聴覚教育研究会の両方に所属しており、今年度の研究大会が全くの白紙であることを知り、買って出たというわけである。

授業は回数を重ねるとそれだけ反省点を生かしながら上達する。というわけで、本論文については、2 回目に行った上磯小学校での授業を中心に反省を加えていく。

写真 5.4.1　上磯小５年生の子どもたち

他校で授業を行うということは、いくつかのハードルがある。一番大きいのは、子どもたちと初顔合わせで授業を行うということである。筆者もこのようないわゆる「飛び込み授業」をするのは初めてであり、ドキドキであり、その気持ちは子どもたちにとっても同じものがあると考えられる。でも、小学校５年生は、藤城も上磯も同じ。筆者の今回考えてきたことを子どもたちの心にストンと落ちるようがんばろうという思いで授業に臨んだ。もう一つのハードルは、コンピュータの設定などである。自校の場合は、コンピュータのメインテナンスは筆者が全て行っているので、**マシン**の設定も、プログラムのインストールも自由に行い、授業が終わったらデフォルトに戻すという作業をすることができた。しかしながら、人様の学校ではそうはいかない。先方の了解をもらいながら、授業で使うホームページを「お気に入り」に登録し、教師用のマシンに、メールを登録し、受けることができるようにし、さらに、メールの処理、タックシールの印刷など一連の流れがスムーズに行うことができるよう設定をしていった。どうにか、一連の学習活動の流れがスムーズになったのは授業前日の夜９時を過ぎていた。

当日は、5年1組の担任の附田先生とのティームティーチングで行った。あとのアンケートを見ると附田先生は「北海道の中でもすごい先生が教えてくれるんだよ。」みたいなことを言われていたようで、お恥ずかしい限りではあるが、子どもたちも目を輝かせながら、コンピュータ室に入ってきた。附田先生には、主に子どもに指名をする役をしてもらった。とても活発なクラスで、積極的に手が挙がるクラスであった。ふだんの指導はこのようなところでも出てくるものであるとつくづく感じた。

「最初の個人情報とは何か。」でも様々な意見が出た。住所、氏名はもちろんのこと、趣味、血液型など、筆者も判断に迷うようなものも出て、ずいぶん盛り上がり、時間をとってしまった。

写真 5.4.2「個人情報とは何か」でたくさんの意見が

個人情報とは何かをしっかりと押さえた上で、スキットへと入っていった。スキット2の母親の交通事故でも、ほとんどの児童が、「父親の連絡先を教えない。」と答えた。どのように対応するかという発問に対しても、「ナンバーディスプレーで確認する。」、「母親の携帯電話にかけて連絡をとってみる。」など論理的に考える発言が数多くでた。筆者はこのスキットでは半数ぐらいが、「教えてしまうかもしれない。」という選択を予想していたが、子どもたちの考えはかなり厳しいものであった。筆者は、「先生がこのスキットを作ったのは、偽物だと決めて作ったわけではないのです。もしかしたら本当の場合だってあることも十分考えられます。皆さんが発表したように、本当なのかどうか確かめられる状況であれば、確かめるにこしたことはないです。でも、実際に警察を名乗ってこのような電話がかかってきたら、決して冷静に発表したようなことができるかどうかわかりません。もし、仮にそのような電話を受けたとしたら、あなたたちが生まれて 10 年間生きてきて、その中で身につけてきた体験から判断して、これはお父さんの連絡先を話したほうがいいと思ったら、しゃべって構わないんだよ。事故は本当かもしれない

写真 5.4.3 個人情報を教えてしまった苦い経験も

し、そうすれば一刻も早くお母さんにところに駆けつけることができるんだからね。そしてね、もし、この電話が全くの嘘で君たちが騙されたとしても、君たちは悪くはない。騙す大人が悪いんだから。いいかい、何かこういう電話などに出遭ったら、何でも『教えない』でなくて、時には逆に話さなければならない場合っていうのもあるんだよ。難しいかもしれないけど、自分で判断して決めなければならないこともあるからね。」と話をした。

少しでも子どもたちと時間を共有したいと思い、昼食は給食、それも５年１組の子どもたちと、子どもたちの班に入れてもらいながら、ひと時を過ごした。給食でも個人情報のことが話題になって「成績はどうなんだ」っていう話が出た。4 時間目の授業ではでなかったが、まさしく個人情報である。

写真 5.4.4　30 名近い先生方が来て、子どもたちより筆者の方がドキドキ

５時間目が研究授業となる。昼休み頃になると、次々と授業を参観される先生方がやってきた。大学生も何名かやってきてくれた。筆者は今、現職の小学校教員であり、また大学院生である。この立場にいて、とても思うのが、これから教員を目指す学生さんたちに、できるだけ多く教育の現場を見てほしい。そして、教員の卵という段階でありながらも、現職の先生が行う授業を見て、思ったこと、感じたことを発表してほしいと常々思っている。筆者は、これからも、先生方に参加してもらう研究会や講習会には是非、学生にも案内していきたいし、また、現職の先生も、次代を担う学生たちに、現場の様子を見る機会を多く与えられるよう案内を回して欲しいものと思う。大学と学校現場のパイプをしっかりもって、教員養成をしていくことが大切だと考える。今回の授業においても、筆者の電子メールのアドレス帳に入っている全ての学生さんに案内を出し、数名がやってきてくれた。筆者にとっては、とても嬉しい授業である。

再びコンピュータ室に 5 年１組の児童 32 名が集まり、児童と同じ数ぐらいの先生方、教育大の学生さんを迎え授業が始まった。参観者が多いと確かに緊張する。授業の反省では一言一言が吟味され、質問や意見が上がってくる。まさに緊張である。その一方で、子どもたちの前で、そして先生方の前で、スポットライトを浴びたスターのように、情報教育を語ろうとする自分を感じていた。緊張ではあるが、なかなかいいものでもある。

インターネットへのアクセスは、子どもたちもふだんの授業で使っているだけあってスムーズに開くことができた。ネット社会の歩き方で、問題点を調べる課題では、マウスを

使って、画面を行ったり、戻ったりしながら、答えを探していた。大勢の中で、筆者と同じくらい子どもたちも緊張しているのだろうと思ったが、前の時間同様、子どもたちは積極的に発言をし、授業が盛り上がっていった。

いよいよ授業のメインであるニセホームページへの入力である。子どもたちには、前の時間に個人情報は、軽々しく人に教えるものではないと教えた。それにも関わらず、ニセのホームページへ子どもたちの個人情報を入力させようとしている。筆者は子どもたちに、「皆さんが入力した個人情報は、先生のコンピュータ以外に絶対に出回ることはありません。個人情報を人に教えることは慎重にしなければなりませんが、今回は先生を信じて、入力して下さい。先生は授業が終わったらすぐに情報を消しますから。」と伝えてから授業に入った。

写真 5.4.5　ニセホームページを見る子どもたち

入力段階では、個人情報入力の前に簡単なアンケートがある。放課後の遊び、家での勉強時間、好きな教科、嫌いな教科などの項目に子どもたちは楽しく答えていた。また、当たるはずのないことがわかっているプレゼントに対しても、プリンにしようか、デジカメにしようか、迷っていた子どももいた。

いざ、個人情報の欄にたどりつくと、子どもたちの顔つきも幾分真剣になってきた。郵便番号、都道府県、住所と入力していく。なれていない児童には、周りの先生方も応援してくれた。筆者もその時間個別指導に回った。そして、氏名、学年、性別を入力すると、最後に「送信」と「リセット」のボタンがある。巡視をしながら、「送信」の上でマウスが止まっている子どもがいた。「その『送信』ボタンをクリックしてね。」と指導すると、「先生、なんだか、ボタンを押すのがドキドキしちゃう。」と答えてくれた。筆者は、「そのドキドキしたという気持ちはとっても大切なんだよ。インターネットを使う時はこの気持ちをずっともってね。」と優しく声を

写真 5.4.6
自分の住所や名前を入れ、「送信ボタン」をクリック

かけた。早く終わった児童は、プリントをまとめる作業にかかり、最後の一人も無事送信ボタンを押した。先生用の画面には、メールの着信状況がリアルタイムに表示されていた。

筆者は白衣に着替え、「それではみなさん。」という強面の声で、子どもたちに語りかけた。しーんとしてこれから何が起きるんだろうという表情で、みんな興味深深に筆者を見ている。

写真 5.4.7　白衣に着替え、悪徳業者を演じた。スクリーンには、住所の一覧が。

筆者はメール集計ソフトを立ち上げ、子どもたちのパソコンから届いた個人情報の入ったメールを一瞬にして解析した。一覧表になって出る自分たちの住所・名前。子どもたちからは、「わあー」っていう驚きの声があがった。悪徳業者から真顔の先生の顔になり、「手で書いたはがきは、悪徳業者が、がんばってパソコンに入れていかなければならないけど、メールできたら一瞬でこんな形になっちゃうんだよね。」と説明し、再び悪徳業者の顔に。

今度は、タックシールの作成。ワード、エクセルは筆者の専門とする領域であり、練習を積み重ねたことにより、あっという間にタックシールの様式にデータが編集されていった。名前の漢字がなかなかでなくて平仮名で入力した子のは、そのまま平仮名ででており、まさに自分の入れたデータだと確認された。印刷ボタンを押すと、子どもたちの住所が入ったラベルがすぐに出てきた。さっそく、頼んでおいた悪徳業者の子分役のアシスタントの先生に事前に準備しておいた封筒に入った手紙にラベルを貼り、子どもたちへと配達した。

写真 5.4.8　悪徳業者から、子どもたちに手紙が届く

このテンポで集められた個人情報が処理されていく過程を見たのは子どもたちは初めてだったに違いない。また、授業を見ている先生にとっても同じであっただろうと思う。

授業の最後に子どもたちに感想を書いて、数人に発表してもらった。そのいくつかを資料として添付する。

写真 5.4.9　話し合いでは、「こわさ」について話題が。

筆者は２時間目のメインの授業の子どもたちにとってもキーワードは「こわい」であり、「すごい」であると分析する。送信ボタンを押すのをちょっとためらっていた女子児童の「こわい」という気持ち、また、自分たちの個人情報が一瞬に一覧表になってまざまざと見せ付けられる、「こわさ」、そして「すごさ」を知る授業だった。

１時間目の授業の子どもの感想（抜粋）

・電話番号などを聞いてお金になることが今日わかった。すごく楽しい授業だった。もっと電話に出るときに気をつける。

・ふしん電話がかかって来たときにどうすればいいかわかって、たいへんよかったです。家にきたときには、キツイことをいいましたが、これで助かりました。タメになったじゅぎょうでした。

・知らない人から電話がかかってきたらどうやってたいおうするかがわかった。それにすごく自分のためになったと思う。それにすこし安心して家にいられる。

・前から個人情報は教えてはならないとわかっていたけど、この学習をとおして、個人情報を教えないことは、大切だと改めて思いました。

・お母さんのことでもやさしい声で言われても、まず、かくにんの電話をお母さんにすることなどが、大切だと思いました。出奈などの場合はぜったいにしゃべってはいけないということがわかりました。

・個人情報がとても大事だということがわかった。自分の家にもし電話がかかってきたら言ってしまうかもしれないと思った。

・先生の授業はわかりやすかった。ぼくはたぶん不しん電話にだまされないと思った。

・個人情報を教えると、とてもきけんだということがわかった。だから個人情報は大切だということがわかった。でも、やっぱり自分のお母さんとかのことで電話がかかってきたら、不安で個人情報をもらしてしまうかもしれない。

・一人の人が友だちなどの電話番号(個人情報)を教えると、たくさんの人たちがめいわくするので、たくさんの人たちが安心できるようになるべくは考えないように心がけるといいと思いました。

・めったにできない勉強だった。それに全国？ですごい人（佐々木）先生に色々なことを

教えてもらった。５時間目の勉強が楽しみ。
・電話をかけられてきいてもふあんになったけど、いろんなことがわかりました。わかりづらいところもあったけど、聞きやすかったです。
・とてもためになってたのしかった。もしあやしい人がきたら、「わかりません」といえばいいんだ。
・不しん電話などがかかってきたら、おやにかわるか、おやがいなければ、筆者は、かえってきてからかけなおしてもらうなどと言って、電話を切る。
・ききおぼえのないことやへんな人から電話が来たら、家の人にかわってもらおうと思った。家の人がいなかったらどうにかして確かめる。
・えいぞうや音声をつかってわかりやすかった。
・へんな電話がかかったら、いろんなことをきかれるから、たしかめなどをしたほうがいいと思った。
・今度へんな電話がかかってきた時、少しはたいおうできるかなあと思った。だからとってもためになったし、おもしろかった。
・個人情報のことがよくわかった。思っていた以上に個人情報は大切なことがわかった。

２時間目の授業の子どもの感想（抜粋）
・インターネットなどで個人情報をかん単に送ってはいけないということがわかった。
・個人情報がかんたんに使われるかがわかった。
・ほしいものがあってあやしいと思っても、どこでつくったのかなどのしっかりとした住所がかいてあったりしたら、安心して送っちゃうかもしれないから、こわい。
・個人情報は簡単に送信できるというのがわかった。
・おもしろかった。路畏友はあくとく会社におうぼするのがおもしろかった。
・個人情報がもれたら、大変だということがとてもわかった。だから、個人情報はまもらなければならない事がよくわかった。
・４時間めの授業より、かなりわかった。個人情報について、色々なことがわかった。これからも、気をつけてやる。
・知らないアンケートはやっぱり送らないほうがいいと思いました。
・あやしいホームページは書き込んでしまったら邯鄲に悪い人に行ってしまうことがわかった。
・初めてアンケートをやってあやしかったけど、勉強がわかりやすくて楽しかった。
・遊び道具と書いてあるからおかしい。本当に届いたらいいなと思った。
・学年や住所を聞くのはあくとくぎょうしゃだとわかるようになった。
・どんなところがあやしいとかがわかった。アンケートなどにはあまり答えないほうがいいと思った。
・アンケートのプリンが食べたかった。ためになったじゅぎょうだった。

・実際にインターネットで応募してみて、ちょっとしたアンケートで個人情報がすぐ手に入るので恐いと思った。
・アンケートに応募したら、すぐ手紙ができるので、使われたら大変だと思った。
・最初はどうやって、個人情報を見るかはわからなかったけど、今日習ったじゅぎょうはすごくわかりやすかった。
・個人情報を入力するとへんに使われる場合があるので、あぶないと思いました。
・インターネットでプレゼントにおうぼをするのは、初めてだったので、注意のことはしっかりまもって編なのが送られたりしないようにしようと思った。
・アンケートをやっている時、本当に応募するわけじゃないけど、本気になってやった。あくとくのやくをやった先生がすごく面白かったです。わかんないことがけっこういろいろなことがわかってよかったです。
・インターネットを利用し、かんたんに、色々な人の個人情報がわかるということがわかり、すごくこわくなりました。あと、すぐに手紙などを送れるということがわかった。
・すぐに住所はぜったいにぜったいに書きこんではいけないということがわかりました。コンピュータでおかしなサイトが出たら、すぐに親に相談するように。ということなどのコンピュータはこわいなあと思いました。
・個人情報はあんなにかん単に印さつや保ぞんができるなんてすごいけど、あるいみこわいと思う。
・小学生だけというのがあやしかったけど、先生の作ったホームページだったのでよかった。けど、自分でも１回だけサイトにメアドを送ったことがあったので、これから気をつけようと思った。
・５時間目も個人情報のいろいろなことや子どもだけでやったらいけないことがわかった。５時間目の授業もわかりやすかった。
・個人情報はとてもかんたんに使われやすいから気をつけるようにしたほうがいいということがわかった。
・４時間目と５時間目で学習した事が、自分のためになればいいと思う。もしこのようなことが自分にあったら、この学習を思い出しながらやりたいと思う。それにこういうやつには、すごく気をつけたいと思った。
・個人情報がかんたんにいろいろな人にでまわるかもしれないので、こわいと思った。
・僕はこわくて家にあるコンピュータでそういうことはやってみたいけど、ぼくは勇気がないのでできません。だけど、すごくべんきょうになりました。佐々木先生ありがとうございました。